

小学1年 生活科

「たのしい あき いっぱい」 (東京書籍 1年)

学校教育目標

「人、夢、ふるさと」
つながる力の育成

単元の流れ

単元のポイント

秋の校庭や公園で身近な自然と関わり、それらを利用して遊ぶことを通して秋の自然の様子を感じ取り、夏との違いや変化に気付いたり自分たちの生活を楽しんだりしていく学習である。単元を通してペア・グループ活動を設定し、互いに学び合う力を高めていく。



第1・2時

校庭で、秋の草花や樹木、虫などの動植物の様子を観察したり、木の葉や木の実を集めたりして、簡単な遊びを楽しむ。



第3～10時

- ① 「秋の自然を利用して、おもちゃを作ってみみんなで遊ぶ」というゴールイメージを持ち、校庭や公園等で秋探しを楽しむ。
- ② 見つけた秋を紹介したり、秋の自然を利用したりして、自然を利用した遊びの楽しさに気付く。
- ③ 同じグループの友達と一緒におもちゃを作ったり、遊び方を工夫したりして、気付いたことを伝え合う。



第11・12時

秋と自分たちの生活との関わりを振り返る。
見つけた秋を友達に紹介したり、一緒に遊んだりしたことを絵や文章に表し、聞いたり伝えたりする。

指導項目

〔内容(6)自然や物を使った遊び〕

身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫して作り、その面白さや自然の不思議さに気付く、みんなで遊びを楽しむことができるようにすること。

評価について

活動の様子から毎時間の評価を行うとともに、生活科の特質を考慮し、単元全体を通して長期的に児童の学びを評価する。また、遊びを工夫したり、遊びのルールを考えたりする場面、気付いたことを伝え合う場面等、多面的に児童の様子を見取る。

目指す児童の姿

○友達と秋の遊びを楽しむ中で、互いのアイデアや困っていること等を共有し、一緒により良いものを作り上げようとしている。

この授業では、「あきのおもちゃまつり」に向けて、友達と関わりながら、秋の遊びを存分に楽しむ。校内研究で位置付けられた問題解決的な展開の授業『みなみ学習』の実践により、ペアやグループで情報を収集することで、より良いおもちゃへと発展させていく。また、節目ごとの振り返りの機会に思いを伝え合い、気付きの質を高めていく。このような活動の繰り返しが、「学び合う力」を高め、学校教育目標「『人』とつながる力」の育成につながる。